

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・こしばら		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	令和3年10月 29日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの為、外出支援やボランティアの方をお呼びする事も出来ず、どうしてもホームの中で利用者様に季節を感じ、毎日を楽しんで過ごしていただけるのかを職員全員で考え実行している。こんな時だからこそ、こしばらホームの理念「その人らしさと共に生きる」「今日が一番幸せな日」を改めて考え、利用者様一人一人に寄り添い、その方が生き活きと輝けるよう支援している。アクティビティでは、昔懐かしいカルタやお手玉・おはじきを取り入れたり、季節の行事や日中の活動では、お料理やおかし作り等楽しんで頂いている。三度の食事には、季節の食材を使用し、季節を感じて頂いている。行事の際には、利用者様のリクエストに答え、お好きな物・美味しい物を食べて頂き、毎日笑って楽しく過ごし「今日が一番幸せ」と、思い感じて頂けるように、毎日支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の価値観を大切に、一日一日をその人らしく楽しく生活してもらいたいとの思いで全職員が協力し合って利用者の生活を支えている。管理者は職員の提案を「先ずやってみる」という姿勢で受け止め、職員はのびのびと意見やアイデアを出し合いケアにつながっている。重度になり居室で過ごす利用者には人の声が聞こえたり催し物の踊りが見られるようにホール近くに部屋を移すなど配慮している。利用者の生き生きした表情や笑顔を見逃さず、利用者の希望する生活を支援出来るようにプランに反映させ支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、各事業所が独自の理念を掲げ、職員会議等で「理念に基づいたケアを行う」という視点で、その都度話し合いケアに活かしている。	会議で話し合ったり朝礼後に読み合わせを行い常に理念の共有化に努めている。厳しい状況の「今」だからこそ、より理念の実践が大切であると考えみんなで思いを一つにして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入し、地域の溝掃除や草取り等に参加している。(毎年恒例の地域の夏祭りやボランティアの方の来所はコロナの為中止)	自治会に加入し地域との関係を築き利用者の生活を支えている。現在コロナ禍の為これまで行っていた交流は出来ないが、自治会の活動として溝掃除に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、運営推進会議はコロナの為外部からの参加は中止。ホームでの認知症ケアの取り組みや看取り、活動等は書面にて報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の推進委員の方やご家族様に、2か月に1回ホームでの取り組みを書面にて報告し、意見や要望等を頂き、職員間で共有しケアに活かしている。	現在書面で利用者の状況や活動、ヒヤリハットなど事業所の現況を報告し、委員から意見を聞いている。	新しく委員になった人もいるので、より情報を詳しく伝え、意見交換が出来るよう取り組まれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課に、その都度報告、相談させてもらっている。	不明なことを問い合わせしたり相談をしている。運営推進会議は書面報告をしているのでこれまでより関わりは少なくなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内にて内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。日中緊急時以外は玄関の施錠をせず、外出希望を訴えられる利用者様の対応として、思いを抑制せずに受け入れドライブ等の出来る限りの支援を行っている。	研修や毎月行っている身体拘束委員会でケアの振り返りを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一人ひとりに合わせて対応を考え、利用者の「その時」の思いをくみ取った対応をするよう話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内にて内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。利用者様それぞれの人格を尊重し、常に敬意を持った言葉かけや態度を職員全員が意思統一し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議内での内部研修や自主学習により、制度の内容について確認・理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から、こまめにご家族様と連絡を取り不安な事や疑問点があればお話をしている。可能であればご本人やご家族様にお会いする機会をもち、契約についても、詳しく説明させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向を伺い、発語が難しい方については、出来る限り思いを汲み取り、利用者様本位の運営を行っている。ケアカンファレンスにご家族様の意見を伺っている。	日々の言動の中から利用者の意向を知りサービスや運営に反映させている。家族からは面会時やケアカンファレンス時などに意見を聞き、法人と相談しながら家族の希望に沿うよう対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が、気軽に意見や提案が言える様な職場の雰囲気作りに努めている。提案された意見は職員会議や管理者会議に送り、可能な限り反映させるよう努めている。	毎月職員会議を行い必要時はミーティングで意見を聞いている。管理者は日頃より職員が意見を言いやすい環境作りを行い、職員の提案は「先ずやってみる」という姿勢で実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月管理者会議を行い、職場改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受けたり、毎月職員会議にも参加し、職員1人1人のケアの力量を把握している。外部研修にも積極的に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、同業者との交流は実施できないが、法人内の他ユニットとは活動やケアについて情報を交換し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりご家族様に連絡し、ご様子や意向の確認をしたり、訪問し要望等を伺い、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに来所して頂き面談を行ったり、こまめに電話でお話を伺い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子を観させて頂き、ご家族様にも要望をお聞きし、主治医や訪問看護師、福祉用具事業者に相談し適切なサービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等の手作業や家事、行事等と一緒に参加して頂き、生活を共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等の付き添いをお願いしたり、ご家族様もご本人様を支えている関係が維持出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し例えばご本人がこれまで通っておられた親戚の美容院にご案内し、入所前の生活習慣(馴染みの関係)が維持できるよう努めた。	家族との関係を大事にし、コロナの感染状況を見極めながら面会の時間や人数を決め関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話が難しい時は、職員が間を取り持ち、お互いが親しい関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様のご家族様にも、電話等で連絡し、ご様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様の意向を伺うとともに、日頃の観察により要望を把握し、満足して頂けるサービスの提供が出来るよう検討している。	日頃の活動や生活場面の中で生き生きとした表情や逆に嫌なことなどを知り、全職員で情報を共有してプランに反映させ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握するとともに、ご家族様からお聞きした事やご本人との会話の中から意向を伺い、今まで大切にされてこられた生活環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行い、心身状態の変化に早めに気づけるように努めている。記録や職員同士の情報の共有を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様に意向を伺うとともに、チーム内で都度職員に意見を聞きながらプランに反映させている。	利用者の思いや家族の意見を聞き、生活歴を活かしてその人の希望する暮らしが出来るようにプランを作成している。半年に1回、家族参加のカンファレンスを行っている。記録は具体的に記録し次の支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌などを活用したり、入所者様の情報を口頭でも伝達し合っている。変化があれば職員同士で都度相談し、計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの為、外出等の支援の実施が出来ない為季節の行事や誕生会、お菓子作りやクッキング等、利用者様の意向お聞きし計画、参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域との関わりが出来ない為実践できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医に月1回の往診をして頂き、緊急時には直ぐに連絡と報告を行い指示を得ている。また、皮膚科・整形外科・眼科等必要に応じて往診、受診している。	訪問診療や受診など適切な医療が受けられるよう医師との関係を築き支援している。皮膚科や歯科の往診もある。皮膚の状態を写真に撮り情報提供をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問を依頼し健康チェックを行っている。前日に1人1人の状態を報告し、体調に変化がある場合にはその都度報告、相談し指示を得ている。24時間体制で緊急時も連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、出来るだけ早期に退院できるよう、病院関係者やご家族様とこまめに連絡を取り情報交換し関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの契約を行い、指針を策定してご家族との話し合いの時間をもち、ご家族様の意向や方向の確認を行っている。必要性が生じた場合は、ご家族様や協力医・訪問看護師と共に話し合い、方針を共有している。	医師や訪問看護師の協力がありチームとして看取りの支援に取り組んでいる。方針について家族と何度も話し合いを行い、コロナ禍の中でも法人と相談し家族も付き添いや泊まり込みを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に参加し、資格を習得している。また、外部より講師を招き、AED等の応急手当の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、消防訓練・避難訓練を年1回、内部での訓練も年1回行っている。	今年度、市の補助を受け自家発電機を設置した。地域の人にも停電時に使ってもらうように声をかけている。12月には消防署も参加し火災訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の職員同士で行う利用者様の会話もインシヤルを使いプライバシーの確保に努めている。1人1人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉使いや態度を意識しながら対応している。	情報伝達時はインシヤルトークを行いプライバシーに配慮している。利用者を尊重し、思いを理解した言葉づかいや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望をくみ取ることが出来るよう、日頃より把握できるような声掛けや関わりを意識し、表出された気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、その日の利用者様の状態や気持ちを把握し、臨機応変に対応している。穏やかな気持ちで過ごしていただけるよう、ご本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔、整髪は勿論、行事やイベントの際は、いつもとは違う装いで女性の方にはお化粧をして頂き、特別な気分を味わってもらっている。2か月に1回訪問美容でヘアークットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの理念「美味しい物が食べられる事」にもあるように、1人1人の好みを把握し、楽しく美味しく食事して頂けるよう心掛けている。季節を感じて頂けるよう、その時期の食材は取り入れるようにしている。	利用者は盛り付けや茶碗拭きなど出来ることを行い、季節の干し柿作りや餃子、海苔巻き、お菓子作りなど楽しみながら行っている。季節感のあるおいしい食事作りに力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員同士で情報を共有、利用者様の体調を把握し、食事・水分量が確保出来るよう支援している。また、水分摂取量の少ない方は摂取量の記録を取り、様々な飲み物を用意し好みや体調に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人に合わせた口腔ケアを行っている。夜間は義歯をお預かりし洗浄剤につけ消毒を行ったり、口腔ケアの際には口腔内に不具合がないか確認し、早めに歯科医に相談し必要に応じ、往診・受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りが必要な方は、時間や様子、体調を観ながらトイレ誘導を行い記録している。全介助の方も不衛生にならないよう、時間を観ながらパットの交換を行っている。	職員はそれぞれの利用者に合わせて支援の方法を模索し、情報を共有し合い、日中は出来るだけトイレで排泄出来るように工夫して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を召し上がって頂いたり、バランスの良い食事や、水分摂取量等に心がけている。個々の状態を把握し、かかりつけ医・訪問看護師と相談しながら下剤やオリゴ糖などで排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目安に、ご本人の希望と状況により声掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。重度の方には、リクライニングのシャワーチェアを使用し、2人で介助を行う事で出来るだけ身体の負担が少なくなるよう対応。	午前、午後に入浴出来るが、その日の活動によって時間は変更することもある。気の向かない人には時間を変えて声をかけたり、トイレ後に誘導するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を観察しながら、日中の活動の支援を行っている。居室内の温度・湿度の管理、こまめにシーツを交換し、気持ちよく休んで頂けるよう支援している。、居室で過ごされる時間の多い方は、好きな音楽を流している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。常に利用者様の状態を観察し、状態の変化を見逃さないように職員全員で情報を共有し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事活動を中心に、個々の生活歴に合わせた支援や、歌や体操、お手玉やおはじき等楽しんで頂いている。たい焼きや焼きそば作りを行い気分転換をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの為、その日のお天気や入所者様の気分に合わせて、密にならないよう、ご近所の散歩や近場のドライブの支援を行っている。	散歩やドライブなど密を避けて行き先を決め出かけている。面会制限が少し緩和されたのでグループに分けて市内の名所に出かけた。現地で合流してもらった家族もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりし、事業所で管理している。現在はコロナの為外出支援が行えていないが、ご本人の欲しい物や必要な物はご家族様と相談しながら購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話を掛けて頂き、ご家族様からの電話も取り次いでいる。電話での会話が難しい方には職員が間に入り対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃の様子ので分かる写真や、季節の飾り付けをして安らぎと楽しみのある空間作りに心掛けている。音楽を流して会話を楽しみゆったりと心地よくすごして頂けるよう配慮している。	日頃の暮らしぶりのわかる写真や笑顔の写真、季節が感じられる飾り付けをし、明るい環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で、テーブルの配置を変えお一人の空間を作ったり、入所者様同士や職員と一緒に会話やレクリエーションを楽しんで頂けるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様と話し合い、壁にご本人やご家族様の写真や自身の作品等を飾ったりして、個々に合わせた居室作りに努めている。クローゼット以外は、馴染みのあるご自分のタンスや机を使用させて頂いている。	利用者や家族の思いで馴染みのタンスや飾り物を持参したり、家族の写真や作品を置いている。職員が利用者に合わせて誕生日の写真や飾り付けをしている部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の持ち物には、ご本人様がすぐ分かるように名前が書いてある。必要な箇所には手すりをつけ安全な歩行が保てるよう工夫し、トイレや居室等にも場所が分かる様に名前が書いてある。		